氏　　名　高根（たかね）　務（つとむ）

学位(専攻分野)　博　士（農　学）
学位記番号　論農博第2388号
学位授与の日付　平成13年7月23日
学位授与の要件　学位規則第4条第2項該当

学位論文題目　ガーナのココア生産農民
——小農輸出作物生産の社会的側面——

論文調査委員　（主査）教授 祖田　修　教授 稲本志良　教授 辻井　博

論文内容の要旨

ガーナの主要輸出産品であるココア（カカオ豆）は，そのほとんどがガーナ人農民の小規模経営によって生産されている。本論文ではこの小農輸出作物生産の社会的・制度的諸側面の特徴を，ガーナ南部の3つのココア生産村での実態調査をもとに明らかにした。とくに本論文で注目しているのは，第1に土地権利の実態や労働力の調達関係およびジエンダー関係等の分析により，農業生産における価格以外の面でのインセンティブ構造を明らかにしたこと，第2に土地に対する人口圧力の増加，生産者の世代交代，政府の政策転換などさまざまな要因の影響を受けて変容しつつあるココア生産の実態である。

本論文の内容を，各章ごとにまとめると以下のようになる。まず序章では本論文の研究課題を提示するとともに，本論文の研究内容を先行研究の流れの中に位置づけた。同時に，調査の方法と調査村の概要を明らかにした。

第1章では，ガーナのココア生産の概要をマクロな視点から論述した。ここではココア生産の歴史的発展，政府の政策変化，およびココア生産の技術的特質について論じ，第2章以降でおこなうミクロレベルでの分析に不可欠な予備的な考察をおこなっている。

第2章では，ココア生産と労働の関係を分析している。労働力を需要する側である土地保有者層と供給する側である農業労働者・小作層の区別は固定的ではなく，土地なし農民もそのライフサイクルの段階が進むにつれて土地保有者あるいは安定的な土地用益権を持つ農民となり，労働力を需要する側に転換しうる性質を持っていることを明らかにした。

第3章では，ココア生産と土地の問題をとりあげている。一片の土地に対して複数の主体が同時的に権利を有している事実を指摘し，その結果農民が土地に対して行使できる，支配力の度合いが多様でかつ流動的になっていることを明らかにした。次に個人の土地保有面積の細分化と土地保有者の分散化が進行していることを示し，その社会的背景を明らかにした。

第4章では，ココア生産とジェンダーの関係に注目している。調査対象とした村は母系制社会であり，家族経営というより，妻の経営，夫の経営といった個別の権利・経営関係に特徴を持つ。こうした土地労働をめぐる「世帯」内の複雑な関係を明らかにした。

第5章では，ココア生産と経済格差の関係を，土地，労働，ジェンダー，村民のライフサイクル等の視点から分析し，近年その変動の方向性には中農標準化の兆しが見られることを指摘した。

第6章では，近年の政策変化の小農生産への影響を，2つの事例をもとに分析している。第1にココアの国内流通制度の改革が，大規模生産者層と小規模生産者層との間に異なる影響をもたらしたこと，第2に土地登記の実施が，農村開発の進展よりはむしろ混乱と格差の拡大を生む可能性をはらんでいることを明らかにした。

終章では，本論文の結論として以下の2点に要約している。第1に，農民の行動原理を総体的に理解するためには，価格の影響の分析にかたよった近年の研究だけでは不十分であり，本論文がおこなったような社会的・制度的要因を視野に入れたより広い観点からの再検討が必要である。第2に，土地集積を進める農村資本家層の形成や，大土地保有層と土地なし農業労働者層の二極分化の方向には，必ずしも進行しておらず，むしろ中農標準化の方向を示しており，その背景には社会的・技術的要因があるという点である。

論文審査の結果の要旨

アフリカ農業・農村の研究は近年ようやく深まりを見せつつある。本論文はガーナの主要輸出農産物であるココア生産の実態と特徴および変化を，とくに社会的・制度的側面より明らかにしようとしたものである。

筆者はガーナ南部にある三つのココア生産村での実態調査を行ったが，そこでの生産意欲を支えるものは単に価格動向だけでなく，土地に対する権利，家族関係，技術的背景などの諸問題が強く絡んでいること，また人口増加，生産者の世代交代，政策転換などの影響を受けつつ変容し，全体として経営の中農標準化傾向を示しているととなどを明らかにした。

成果として評価できる点は次の通りである。

1　ガーナのココア生産は，小農経営を主力として行われているが，まずその歴史的過程，政府の政策変化，技術的特質等，ココア生産をめぐる全体状況について明らかにした。

2　小農経営といっても家族的小農というよりは，夫も妻もそれぞれに相対的に独立した土地所有・経営内容を持っており，それはこの地域の伝統的な母系制社会制度を背景としていることを明確にした。その実態について家族労働，雇用労働，共同労働などが相互補完的に活用されている複雑な構造を分析した。

3　こうした経営は，土地の稀少化のもとで，所有の分化，分散化，複合化を伴いつつ，流動的状況にあることを指摘した。そしてそれは両極分化に向かうよりも，むしろ中農標準化ともいえる傾向を示している。しかし国のいわゆる近代化政策は，一種の混乱と格差拡大を促進するような現実とは逆の動きを内容としていることも明確にした。

4　全体としてガーナのココア生産は，価格変化に伴う生産インセンテイブとともに，社会的・制度的要因の影響を受けながら展開・変容している事実を明らかにし，経済経営分析による説明では不十分な側面を明らかにした。

以上のように本論文はガーナにおけるココア生産の現実と特徴を，経済分析を補完する形で，社会的側面を中心に明らかにしたものであり，アフリカ地域研究，農村社会学，農業経営学などの発展に寄与するところが大きい。

よって，本論文は博士（農学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお平成13年５月28日，論文並びにそれに関連した分野にわたり試問した結果，博士（農学）の学位を授与される学力が十分あるものと認めた。